

【主な出来事】

- 3月3日、モルドバとトランスニストリアの「1+1」会合が5ヶ月ぶりに開催。
- 4日、憲法裁判所は大統領直接選挙制の復活を裁定。カンドゥ議長は選挙時期につき本年秋の可能性に言及。
- 14日、EU・モルドバ連合理事会会合開催。

1. 内政

憲法裁判所

▼2日、真に必要な場合に限り、政府が法律を制定することを容認。

・政府が議会に対して完全な責任を負うことが条件。大統領はその公布前に憲法裁の判断を仰ぐことができる。議会が72時間以内に内閣不信任決議を採択しない限り有効。

▼4日、大統領直接選挙制の復活を決定。

・議会による大統領選出制への移行を定めた2000年の憲法改正は違憲であり無効とした。昨年11月の自由民主党の照会に基づく。効力は遡及せず次期大統領選挙から適用。
・カンドゥ議長は、選挙は本年秋に行われるだろうと述べた。
・ドドン社会党党首は本件を歓迎、立候補の意向を表明。今次裁定の合法性についてヴェニス委員会の判断を要請(但し当地EU大使は14日、ヴェニス委員会が右を行う可能性を否定)。また期限前議会選挙の同時実施を呼びかけ。
・「我らの党」は本件に反発し選挙ボイコットを呼びかけ。ドドン党首はブラホトニク氏の子飼いの政治家であると批判。また2014年11月の議会選挙の合法性に疑問を提示。
・ナスタセ「尊厳と真実」党首は立候補の意向を表明しつつ、親欧州勢力の統一候補を擁立する必要性を強調。

政府

▼1日、再統合に関する政府委員会会合開催。

・安全保障地域の安定、人の移動と輸送、「ト」内のルーマニア語学校支援、地域内企業の経済活動と対EU貿易等につき協議。
・バラン再統合問題担当副首相は、本年6月に独OSCE議長国による信頼醸成会議が開催されるとしつつ、モルドバ政府としては連邦化ではなく「ト」地域に特別な法的地位を与えることで本問題を解決するつもりであるとした。

▼11日、閣議開催。

・企業による取得が必要な許認可数の削減方針を決定。
・外国支援の不正利用に関する罰則を強化する法案を承認。モルドバ・EU連合協定実施行動計画の一つ。

議会

▼3日、議員特権に関するカンドゥ議長の発言。

・議員特権を政治活動に関するものに限定すべきあるとして、議会多数派として憲法改正案を策定する予定であるとした。

▼11日、新たな中央銀行総裁に Cioclea 氏を任命。

・公募に基づき応募した9名から選出。

▼以下の法律を採択。

ー未決拘禁期間を12ヶ月に制限する刑法改正(3日)。
ー3ヶ月の企業査察モラトリウムに関する法(4日)。

その他

▼10日、ルプ民主党党首発言。

・ブラホトニク第1副党首が大統領職を追求することはないが、首相職を希望する可能性はあるとした。

▼14日、プラットフォーム「尊厳と真実」は、憲法改正国民投票実施に向けた署名40万件を提出。

・議員定数削減(101議席から71議席へ)、議員特権の制限、国民による大統領の選出・解任を含む。

▼フィト元首相の動向。

・2日、裁判所は、自由民主党議員の個人保証による同元首相の自宅拘禁への変更申請を却下。イラン・ショールが証人として出廷。

・15日、同元首相は、本件が政治的報復であり、国家権力の完全掌握をもくろむシナリオの一部であると改めて主張。

▼ペトレンコ元議員関連。

・4日、同元議員の弁護士は、本件が欧州人権裁判所において受理されたと発表。

・10日、議会は本件に係る調査委員会の設立を否決。

▼サンドゥ元教育大臣の動向。

・8日、同氏が進める「行動と連帯のための党」が本年4月には創設される見通しであるとした。

2. 外交

▼1日、カルムイク副首相兼経済相ルーマニア訪問。

▼3～5日、プリנק米国務次官補代理の来訪。

・フィリップ首相と会談。米国政府としてモルドバの改革路線を支持することを表明。

▼14日、EUモルドバ連合理事会(於:ブリュッセル)。

・フィリップ首相が出席。EU側からはモグリーニ外交安全保障上級代表、ハン欧州近隣諸国政策・拡大委員らが出席。EU・モルドバ連合協定の実施に係るロードマップを含め、改革の進捗状況等につき協議。

3. 経済

▼1日、IMFミッション(2月23～29日)結果報告。

・最近の経済発展の評価、及びマクロ経済の安定化と金融セクターのガバナンス改善のための政策に焦点を当てたしつつ、一定の前進は確認されたものの、未だ見通しは厳しく優れた経済運営が求められるとした。特に長期に亘る銀

行の監督の欠如を是正することは、マクロ財政安定化とモルドバの経済発展のために極めて重要であるとした。

・交渉マンデートを有する新ミッションの派遣時期は不明。

▼2016年の電力輸入契約

・モルドバ「エネルギーコム」は、本年4月から1年間の電力輸入契約をトランスニストリア仲介企業「エネルギーキャピタル」と締結。1MWh当たり48.995米ドルで、現在の67.95ドルから30%近い値下げ。

・3日、ボルトルシュコ・トランスニストリア経済「大臣」は、2015年の「ト」産電力の対モルドバ輸出は「ト」の対外輸出の37%を占めており、2016年の電力供給契約が締結できなかったら「ト」経済は壊滅していただろう旨発言。

(参考:2014年11月、ウクライナが国内供給量不足のため対モルドバ電力供給を事実上停止したことから、2015年以降のモルドバ電力は主に「ト」産。他方、本年初めウクライナは、対モルドバ電力供給全面的再開の用意を表明し、「ト」側はモルドバ市場を失うことへの危機感を強めていた。)

・12日、国家エネルギー規制庁は、地域により8~11%の電力料金値下げを決定。

▼2日、中銀はモルドバ・アグロインド銀行及びモルドインドコン銀行に対する処分を発表。

・株主間で協調行動が行われていたことを理由に、透明性を確保するための措置として、一部権利停止、株の売却、特別株主総会開催、副総裁解任等を指示。

(参考:10億ドルの銀行スキandalを受け、これら銀行に対しても調査が行われていた。)

▼2日、政府は2016~20年の投資誘致・輸出促進国家政策を策定。

・直接外国投資380百万ドルと新規雇用1万名を目指す。

▼2~3日、ゴルベフ・ガスプロム副総裁兼モルドバガス監査役会議長の来訪。

・フィリプ首相と会談、協力強化、モルドバガスの経営効率化、モルドバのガス債務(50億ドル以上。うち90%以上はトランスニストリア地域のもの)等につき協議。

▼14日、ロシアは、モルドバの証明書が付加された農産物のベラルーシ経由での輸入を一時的に禁止。

・モルドバ産とされる農作物のベラルーシ経由の流入が特段の理由なく急激に増加したことを受けて。

経済協力

▼3日、議会は無償支援プロジェクト数案件の受入に係る法案を採択。

ー鉄道改革無償支援(25万ユーロ、EBRD)。本件履行は鉄道インフラ近代化のための融資5220万ユーロの条件。

ー教育マネージメント情報システム強化(36万ドル、世銀)。

4. トランスニストリア

▼2日、トランスニストリア紛争24周年。

・ティモフティ大統領が声明を発出。分離主義者によって始

められ、ロシアによって公然と支持されている紛争の影響は今も感じているが、モルドバは国家再統合を諦めはしない、平和的な解決が優先課題であり、1999年OSCEサミット宣言に基づくロシア軍の撤退から開始する必要があるとした。

・シェフチュク「ト」「大統領」も声明を発出、モルドバによる侵略を批判。

▼2日、「ト」最高会議は2016年予算案採択。

・歳入2億1020万ドル、歳出4億3230万ドル。歳入不足が歳入額を超えたのは初めて。

▼3日、5ヶ月ぶりの「1+1」会合開催。

・バラン・モルドバ副首相とイグナチエフ「ト」「外相」代りが会談。今次会合は建設的であり、今後毎週会合を行う用意があるとした。バラン副首相は、「3+2」会合関係者が4月中にキシニョフとティラスポリを訪問し、「5+2」会合が春に再開されることを期待すると述べた。

▼5日、ボルトルシュコ「ト」経済「大臣」発言。

・2015年、「ト」の輸出額の減少(716百万ドルから611百万ドルへ)を受け、外貨準備高が減少したと述べた。

5. その他の情勢

▼シャルル国防大臣の発言。

・2月29日、モルドバの「中立」はフィクションであると批判。モルドバがNATO加盟できないのはトランスニストリア駐留ロシア軍のためであるとして、文民または国連主導の平和維持部隊への変更を主張。モルドバの中立維持を求める社会党、「我らの党」及び共産党に対し、ロシアの利益を代表しているとして批判。

・4日、国家安全保障戦略案はロシアの脅威に係る現状を反映していないとして批判。

・11日、共産党は、同国防相がモルドバのNATO加盟を主張しているとして、議会にて解任の動議を行うも、否決。

▼6~19日、モルドバ軍と米軍の共同訓練実施。

・4年間の訓練プログラムの一環、ベルツで実施。約130名のモルドバ人兵士が参加。

ガガウズ自治区

▼4日、フィリプ首相の訪問。

・ガガウズ人民会議代表者の参加を得て、合同閣議を開催(13年ぶり)。社会・経済発展計画策定のための特別委員会の設立に合意。

▼15日、ブラフ長官のペテルブルク訪問。

・ペテルブルク副知事と会談。ガガウズ・ロシア貿易等につき協議。近くペテルブルクにガガウズ代表部を設立予定。

6. 各種統計

▼1月末のモルドバの公的債務(7日、財務省発表)

・対外債務13.3億ドル、国内債務74.4億レイ(銀行スキandalにより解体された3銀行の補填に使われた137億レイを含まず)。

(了)